

1月給食だより

2025年 1月号
調布市立飛田給小学校
校長 松田 隆
栄養士 小島 里奈

新年あけましておめでとうございます。
今年度も、残すところあと3か月となりました。
引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような、
魅力ある給食作りに努めていきたいと思ひます。
本年もよろしくお願い致します。

今年は巳(へび)年!

へびは、食べるときに獲物を丸のみ
しますが、皆さんは、よくかむこと
を意識して味わって食べましょう。



1月24日~30日は、全国学校給食週間です!

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町(現:鶴岡市)の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりと
されています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。
戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA(アジア救済公認
団体)」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年
12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」
としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日~30日までの1週間を「全国学校給食週間」
とすることが定められました。

全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校
給食についてあらためて考える機会にしてほしいと思ひます。

学校給食の移り変わりを見てみよう!

明治22年	戦後(昭和20~30年代)	現在
私立忠愛小学校で 提供されたとき の給食。	支援物資の脱脂粉乳 や缶詰、小麦粉など を使った給食。	地域でとれる旬の食材を取り入 れ、郷土料理や行事食、世界の料 理など、食育の教材となる給食。

阪神・淡路大震災から30年

災害時の「食」を備えましょう

1995(平成7)年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、
被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出し
の「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動
推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と決めました。
阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新し
いですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを
前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

※2018(平成30)年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

災害時の食の備え

★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

そのまま食べられる 非常食	ローリングストックで備える 日常食品	外出時の 持ち歩き用品
 アルファ化米、缶詰、 レトルト食品、菓子類など	 お米、乾麺、乾物、日持ちの する野菜・果物、調味料など	 飲料水、チョコレート・あめ などの菓子

災害発生直後の食事

避難所などへ避難することも考え、1日分の飲料水と非常食を、非常用持
ち出し袋等に入れておきましょう。家にとどまる場合は、冷蔵庫・冷凍庫の
中にある腐りやすいものから食べ始めると、食品を無駄にせず済みます。

家族の好みや状況によって必要な物は異なります。家庭で
備蓄リストを作成し、必要な物を準備しておきましょう。

カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べること
ができます。あらかじめ使い
方を確認しておきましょう。

赤ちゃん用ミルク、
食物アレルギー対応食品、
介護用食品など